

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

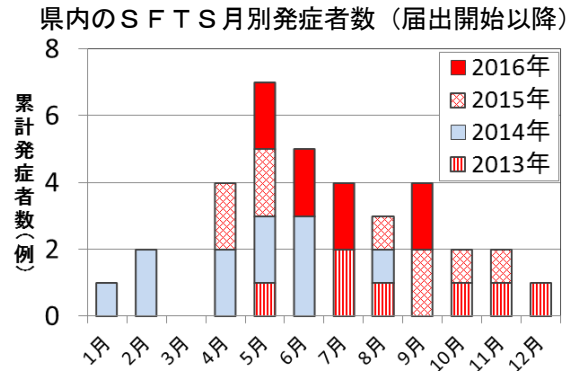
## 宮崎県第40週の発生動向

### トピックス

・**重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)** (全数報告の感染症) の報告が宮崎市保健所から1例あった。県内での報告は今年8例目で、累計35例 (平成25年3月届出開始以降) となった。患者は60歳代男性で、発症は9月下旬であった。ダニの刺し口があり、海外渡航歴はなかった。

県内のSFTS年齢別報告数 (届出開始以降)

30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	11	10	9	1



### 全数報告の感染症 (40週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 5 例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例。
- 4 類感染症：重症熱性血小板減少症候群 1 例。
- 5 類感染症：カルバペネム腸内細菌感染症 1 例、水痘 (入院例) 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	50歳代	女	無症状病原体保有者	-
			60歳代	女	肺結核	咳、痰
		都城	40歳代	女	無症状病原体保有者	-
			50歳代	男	無症状病原体保有者	-
		日南	80歳代	男	肺結核	発熱
3類	腸管出血性大腸菌感染症	高鍋	10歳代	女	-	腹痛、水様性下痢、嘔吐、発熱、O26(VT1産生)
4類	重症熱性血小板減少症候群	宮崎市	60歳代	男	-	発熱、筋肉痛、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、刺し口
5類	カルバペネム腸内細菌感染症	延岡	60歳代	男	-	術後の創部感染症 菌種: <i>Enterobacter cloacae</i>
	水痘 (入院例)	宮崎市	60歳代	男	臨床診断例	発熱、発疹、急性腎不全、免疫不全、他疾患入院中の発症、ワクチン接種歴不明

### 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は751人 (定点当たり25.7) で、前週比114%と増加した。前週に比べ増加した主な疾患はRSウイルス感染症と手足口病で、減少した主な疾患は流行性耳下腺炎と水痘であった。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【RSウイルス感染症】

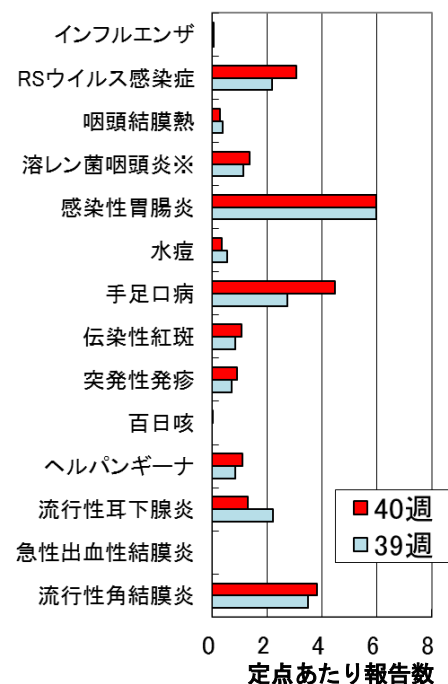
報告数は110人 (3.1) で、前週比141%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\* (2.9) の約1.1倍であった。延岡 (11.3)、日向 (8.0) 保健所からの報告が多く、年齢別は2歳以下が全体のほぼ全数を占めた。

##### 【手足口病】

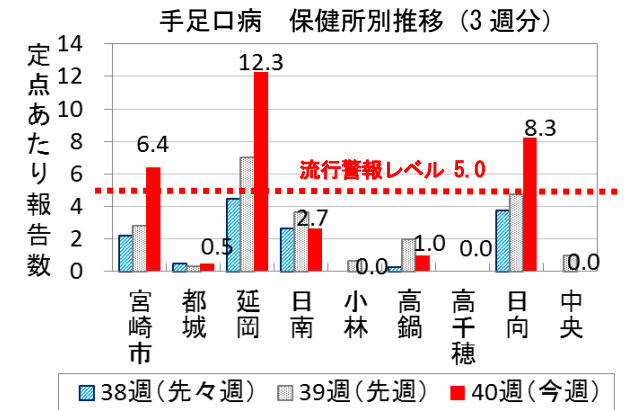
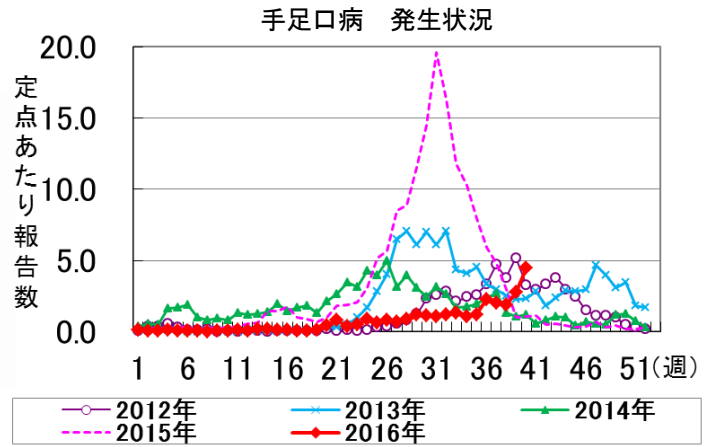
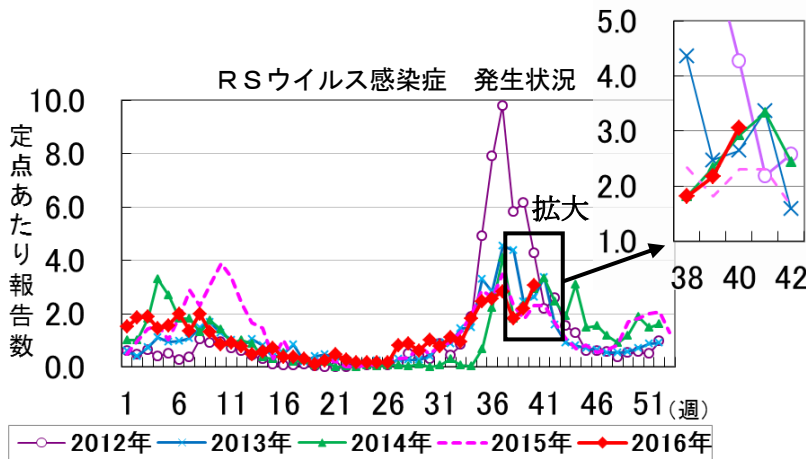
報告数は161人 (4.5) で、前週比163%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\* (2.0) の約2.2倍であった。延岡 (12.3)、日向 (8.3)、宮崎市 (6.4) 保健所からの報告が多く、年齢別は1~2歳が全体の約6割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週 (計15週) の平均値

《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：

延岡(4例)、宮崎市、日南、日向(各3例)、高鍋(1例)保健所から報告があった。0～4歳が5例、5～9歳が4例、10歳代が5例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	手足口病(6.4)
都城	なし
延岡	手足口病(12.3)
日南	なし
小林	伝染性紅斑(2.7)
高鍋	なし
高千穂	流行性耳下腺炎(7.0)
日向	手足口病(8.3)、伝染性紅斑(2.3)、流行性耳下腺炎(3.0)
中央	なし

＊流行警報レベル開始基準値＊

- ・手足口病(5.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

＊流行注意報レベル基準値＊

- ・流行性耳下腺炎(3.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成28年10月11日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Bordetella parapertussis</i> (パラ百日咳菌)	5～9歳	男	2016.9.10	気管支炎、咳、嘔気	咽頭ぬぐい液	2016.9.13
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	男	2016.9.16	咳	咽頭ぬぐい液	2016.9.29
EHEC(O157:H7 VT2)	20歳代	女	2016.9.12	無症状	便	2016.9.20
<i>Salmonella</i> Miyazaki (O9:l,z13:1,7)	0～4歳	男	2016.9.21	-	便	2016.9.30
<i>Salmonella</i> Stanley (O4:d:1,2)	50歳代	女	2016.9.30	-	便	2016.10.6

○5～9歳の男児からパラ百日咳菌が検出された。パラ百日咳は百日咳と比較して症状が軽いとされているが、臨床症状から両者を鑑別することは困難である。当所では、Real-timePCR法を用いてパラ百日咳菌と百日咳菌の鑑別を行い、改良型シクロデキストリン(CSM)培地等で分離を行っている。全国的に分離数が少なく詳細については不明な点が多いため、今後も引き続き発生動向に注意していく必要がある。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
水痘・帯状疱疹ウイルス	60歳代	男	2016.10.03	水痘、39.4℃、水疱、発疹(丘疹)、出血傾向(紫斑病)、肝機能障害、腎機能障害、腎不全	咽頭ぬぐい液 血清	2016.10.05
パラインフルエンザウイルス1型 ライノウイルス	0~4歳	女	2016.10.04	慢性心筋炎の疑い、ショック症状、 下気道炎(気管支炎)、咳嗽、喘鳴、心機能低下	咽頭ぬぐい液	2016.10.04
パラインフルエンザウイルス1型	5~9歳	女	2016.09.13	感冒、39.8℃、頭痛	咽頭ぬぐい液	2016.10.04
パラインフルエンザウイルス1型	0~4歳	男	2016.09.12	39.6℃、頭痛、筋肉痛	鼻汁	2016.10.04
RSウイルス	0~4歳	男	2016.09.13	急性細気管支炎(RS疑い)、37.7℃、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2016.10.04
コクサッキーウイルスA6型	0~4歳	女	2016.08.16	手足口病、37.6℃、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	2016.09.28
コクサッキーウイルスA16型	0~4歳	男	2016.09.05	手足口病、39.5℃、水疱	咽頭ぬぐい液	2016.09.28
コクサッキーウイルスA16型	0~4歳	男	2016.09.07	手足口病、37.5℃、発疹	咽頭ぬぐい液	2016.09.28
コクサッキーウイルスA16型	0~4歳	男	2016.08.17	急性脳症疑い、39.0℃、熱性けいれん、脳症	便	2016.09.28
サイトメガロウイルス コクサッキーウイルスA16型	0~4歳	男	2016.08.16	水痘または手足口病、38.4℃、水疱、発疹	咽頭ぬぐい液	2016.10.06 2016.09.28
コクサッキーウイルスB5型	0~4歳	男	2016.08.12	ノロウイルス腸炎、発熱、上気道炎、 胃腸炎(下痢・嘔吐・嘔気)	便	2016.09.28

○3名の乳幼児・小児からパラインフルエンザウイルス1型が検出された。パラインフルエンザウイルスは乳幼児における下気道炎(肺炎、気管支炎、細気管支炎)の起因ウイルスとなることが多い。また、3名のうち1名は慢性心筋炎の疑いがあった。心筋炎は心症状(胸痛、失神、呼吸困難、動悸、ショックなど)に先行してかぜ症状や消化器症状などの非特異的な症状で発現し、様々なウイルスの感染によって惹起されることが知られている。当所では、今年9月以降にパラインフルエンザウイルス1型が5件、3型が9件検出されており、今後の動向に注意が必要である。

○手足口病疑いの乳幼児3名と急性脳症の幼児1名からコクサッキーウイルスA16型が検出された。

🇯🇵 全国 2016 年第 39 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 39 週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	393 例				
3類感染症	コレラ	1 例	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	66 例
	腸チフス	4 例	パラチフス	1 例		
4類感染症	E型肝炎	3 例	A型肝炎	3 例	チクングニア熱	2 例
	つつが虫病	2 例	デング熱	10 例	日本紅斑熱	13 例
	日本脳炎	4 例	レジオネラ症	52 例	レプトスピラ症	3 例
5類感染症	アメーバ赤痢	12 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	26 例
	急性脳炎	2 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8 例
	後天性免疫不全症候群	20 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	15 例	水痘(入院例)	3 例	梅毒	69 例
	播種性クリプトコックス症	4 例	破傷風	4 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3 例
	風しん	1 例	麻しん	6 例		

麻しんの報告数は6例で前週比約0.7倍と減少した。東京都、神奈川県(各2例)、静岡県、大阪府(各1例)から報告があり、九州地方からの報告はなかった。年齢別では20歳代、30歳代から各3例ずつ報告があった。

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比125%と増加した。前週と比較して増加した主な疾患はRSウイルス感染症と感染性胃腸炎であった。減少した主な疾患はなかった。

流行性耳下腺炎の報告数は3,790人(1.2)で前週比128%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.41)の約2.9倍であった。新潟県(4.3)、富山県(2.8)、徳島県、鹿児島県(2.4)からの報告が多く、年齢別では4~6歳が全体の約半数を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

宮崎県感染症週報[第18巻39号]の全数報告の感染症において、表の分類に誤りがございました。3類ウイルス性肝炎と掲載していましたが、正しくは5類ウイルス性肝炎です。お詫びして訂正いたします。

## 月報告対象疾患の発生動向 <2016年9月>

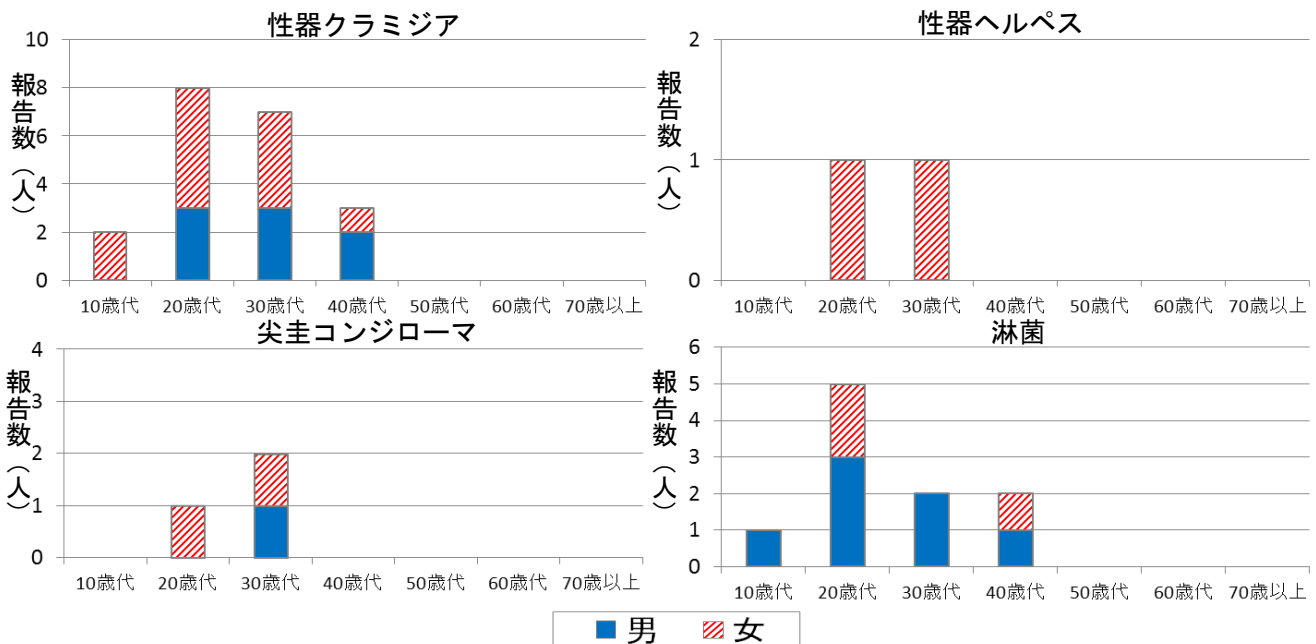
### □性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は35人(2.7)で、前月比106%と増加した。また、昨年9月(1.5)の約1.8倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数20人(1.5)で、前月(1.6)の1.0倍、昨年9月(0.7)の約2.2倍であった。20歳代が全体の4割を占めた。(男性8人・女性12人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数2人(0.15)で、前月(0.15)の1.0倍、昨年9月(0.31)の約0.5倍であった。(女性2人)
- 尖圭コンジローマ：報告数3人(0.23)で、前月及び昨年9月(0.08)の約3.0倍であった。(男性1人、女性2人)
- 淋菌感染症：報告数10人(0.77)で、前月(0.69)の約1.1倍、昨年9月(0.38)の約2.0倍であった。(男性7人、女性3人)



【全国】 定点医療機関総数：984

定点医療機関からの報告総数は4,116人(4.2)で、前月比97%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,167人(2.2)で前月比101%、性器ヘルペスウイルス感染症736人(0.75)で前月比89%、尖圭コンジローマ475人(0.48)で前月比96%、淋菌感染症738人(0.75)で前月比95%であった。

### □薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は12人(1.7)で前月比92%と減少した。また、昨年9月(2.7)の約0.6倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数12人(1.7)で、前月の約1.1倍、昨年9月(2.7)の約0.6倍であった。70歳以上が全体の約6割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：473

定点医療機関からの報告総数は1,490人(3.2)で、前月比96%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,324人(2.8)で前月比96%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症151人(0.32)で前月比97%、薬剤耐性緑膿菌感染症15人(0.03)で前月比75%であった。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2016年 第40週(10月3日～10月9日)

疾病名		第39週	第40週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	3	3								3	
	定点あたり	0.05	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	78	110	17	1	45	6	2	4	2	32	1
	定点あたり	2.17	3.06	1.70	0.17	11.25	2.00	0.67	1.00	2.00	8.00	1.00
咽頭結膜熱	報告数	14	10		1		2	1	1	2	2	1
	定点あたり	0.39	0.28	0.00	0.17	0.00	0.67	0.33	0.25	2.00	0.50	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	41	49	31	3	2	3	2	6		1	1
	定点あたり	1.14	1.36	3.10	0.50	0.50	1.00	0.67	1.50	0.00	0.25	1.00
感染性胃腸炎	報告数	215	215	41	49	6	44	30	15	3	23	4
	定点あたり	5.97	5.97	4.10	8.17	1.50	14.67	10.00	3.75	3.00	5.75	4.00
水痘	報告数	20	12	3	1	5			1			2
	定点あたり	0.56	0.33	0.30	0.17	1.25	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	2.00
手足口病	報告数	99	161	64	3	49	8		4		33	
	定点あたり	2.75	4.47	6.40	0.50	12.25	2.67	0.00	1.00	0.00	8.25	0.00
伝染性紅斑	報告数	30	38	8	4	4	1	8	4		9	
	定点あたり	0.83	1.06	0.80	0.67	1.00	0.33	2.67	1.00	0.00	2.25	0.00
突発性発しん	報告数	26	33	6	5	6	7	1	4		4	
	定点あたり	0.72	0.92	0.60	0.83	1.50	2.33	0.33	1.00	0.00	1.00	0.00
百日咳	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	30	39	5	3	8	7	1	2		9	4
	定点あたり	0.83	1.08	0.50	0.50	2.00	2.33	0.33	0.50	0.00	2.25	4.00
流行性耳下腺炎	報告数	80	47	6	2	6		8	6	7	12	
	定点あたり	2.22	1.31	0.60	0.33	1.50	0.00	2.67	1.50	7.00	3.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	21	19	13	1	5						
	定点あたり	3.50	3.80	6.50	0.50	5.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	10	14	3		4	3		1		3	
	定点あたり	1.43	2.00	3.00	0.00	4.00	3.00	0.00	1.00		3.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:5、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～40週)

2類感染症	結核	165例(5)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	13例(1)				
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	8例(1)
	つつが虫病	6例	デング熱	1例	日本紅斑熱	4例
	レジオネラ症	1例				
5類感染症	アメーバ赤痢	12例	ウイルス性肝炎	3例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	5例(1)
	急性脳炎	10例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	5例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	5例
	水痘(入院例)	3例(1)	梅毒	8例	播種性クリプトコックス症	3例
	破傷風	1例				

( )内は今週届出分、再掲